

観点別特色一覧表

組織・構成・配列	内容				検討の観点	
<p>全体的な構成について工夫がなされているか。</p>	<p>特別活動・総合的な学習の時間などとの連携について配慮されているか。</p>	<p>生徒の発達段階に応じた内容構成などの工夫がなされているか。</p>	<p>現代的な課題についての配慮がなされているか。</p> <p>◆ いじめ防止</p> <p>◆ 情報モラル</p> <p>◆ LGBT</p>	<p>生徒が自ら考え、議論する工夫がなされているか。</p> <p>◆ 多様な他者とのコミュニケーションを大切に、自分と異なる意見や考えにふれ、新たな発見や気づきにつながるようになっています。他者のかかわりの中で多様なアプローチから、道徳的諸価値の主体的な追究ができるようになっています。</p> <p>◆ 中学生の発達の段階では、生徒自身が生きる社会や人間関係が、飛躍的に広く複雑になっていくことから心理面での成長が促される一方、情緒的に不安定になる場合もあります。また、人間関係の広がりから、日常生活においては、「道徳的諸価値」がふつかり合うことを多く経験していくこととなります。そのために本書は、答えが1つではない道徳的な課題を、「一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、考え、話し合える」と議論する「下」が「上」になる工夫をしています。</p>	<p>社会参画へのアプローチはなされているか。</p> <p>◆ 多様な他者とのコミュニケーションを大切に、自分と異なる意見や考えにふれ、新たな発見や気づきにつながるようになっています。他者のかかわりの中で多様なアプローチから、道徳的諸価値の主体的な追究ができるようになっています。</p>	<p>思考力、判断力を育てるための配慮がなされているか。</p> <p>◆ 本書で特に目指していることは、価値観の多様性をしっかりと受け入れる寛容な心を育むことです。そのためには、物事の多面的・多角的な見方・考え方を身に付けられるようにすることが大切です。取り上げている教材は、身近な事例において、家族や友達、学校や社会といった様々な視点から考えを深めることができるように工夫しています。</p>
<p>◆ 本書は、学習指導要領の内容項目順に教材を配置してあります。「A 自分自身と向き合う」「B 他人のかかわり」「C 集団や社会のかかわり」「D 自然や崇高なもののかかわり」の4章立ては、それぞれ学習指導要領のA・B・C・Dに対応しています。これは、教科書の順番に縛られることなく、各地域、各学校の特色や方針によって、自由に各教材を活かしてほしいという意図があります。</p>	<p>◆ 道徳的価値の理解を基盤に、キャリア教育の視点からキャリア発達の段階の連続性と系統性を意図した教材を収録しています。</p> <p>◆ 中学校3年間で学ぶことの集大成としての人の姿を、各学年で1編の巻頭詩に託して生徒に伝えています。</p>	<p>◆ 中学校の3年間は、心も体も大きく成長する時期です。その発達の段階を考慮しつつ、学年間の繋がりを重視した教材を採用しています。価値の多様性をしっかりと受け入れる寛容な心を育む項目は、1年「二つの足跡」から、2年「あなたが見えているもの」「3年「礼儀はなぜ必要なのか」などワーク方式を取り入れ、思考と議論を年単位で積み重ねられるようにしています。また「リョウとマキ」のように、ストーリーに連続性をもたせているものもあります。</p>	<p>◆ いじめ防止</p> <p>・「人間尊重の精神」や「いじめを許さない心の根底」には、「生命を尊ぶ」態度が不可欠です。理科や保健体育、技術・家庭などの他教科での学習も踏まつつ、本書では、生命とは何か、その尊さを守るためにはどのように考えていったらよいかなど、生命尊重への学びをより深めることができる教材を用意しました。</p> <p>◆ 情報モラル</p> <p>・昨今の生徒の人間関係は、家族や友だちといった実際に触れ合う人だけではなく、インターネットを通じて世界中に広がっています。そこには多くの楽しさと便利さがある一方で、その利用で悩んだり、負担に感じるとも多くなっています。生徒にとって、これからの人生で決して欠くことのできないインターネット・コミュニケーションについて、自分ごととして話し合っていくことができる教材を収録しています。</p> <p>◆ LGBT</p> <p>・LGBTの問題を取り上げ、一人一人の個性と、その各個人の有する能力をいかに伸ばしていきけるかについて考えを巡らすことができる内容になっています。多様な個性を持つ個人が、社会において自立的に生きる基礎を培いながら、同時に社会の形成者として必要とされる基本的な資質について話し合っていくことができます。</p>	<p>◆ 中学生の発達の段階では、生徒自身が生きる社会や人間関係が、飛躍的に広く複雑になっていくことから心理面での成長が促される一方、情緒的に不安定になる場合もあります。また、人間関係の広がりから、日常生活においては、「道徳的諸価値」がふつかり合うことを多く経験していくこととなります。そのために本書は、答えが1つではない道徳的な課題を、「一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、考え、話し合える」と議論する「下」が「上」になる工夫をしています。</p>	<p>◆ 多様な他者とのコミュニケーションを大切に、自分と異なる意見や考えにふれ、新たな発見や気づきにつながるようになっています。他者のかかわりの中で多様なアプローチから、道徳的諸価値の主体的な追究ができるようになっています。</p>	<p>◆ 学習指導要領に即した内容構成になっており、答えが1つではない道徳的な課題を「考え、議論する」授業ができる工夫をしています。</p> <p>◆ 本書の編集方針</p> <p>・学習指導要領が求める資質・能力を重視した内容とする。</p> <p>・本書が育てたいこと</p> <p>①自分の身の回りに興味・関心を持ち、道徳的な問題意識を持つことができる</p> <p>②道徳的問題場面に対し、自分の考えを持ち話し合える</p> <p>③他の人の多様な意見との出会いにより、道徳的価値に対する考えを深めることができる</p>
<p>■ 各学年共通</p>	<p>◆ 道徳的価値の理解を基盤に、キャリア教育の視点からキャリア発達の段階の連続性と系統性を意図した教材を収録しています。</p> <p>◆ 中学校3年間で学ぶことの集大成としての人の姿を、各学年で1編の巻頭詩に託して生徒に伝えています。</p>	<p>◆ 中学校の3年間は、心も体も大きく成長する時期です。その発達の段階を考慮しつつ、学年間の繋がりを重視した教材を採用しています。価値の多様性をしっかりと受け入れる寛容な心を育む項目は、1年「二つの足跡」から、2年「あなたが見えているもの」「3年「礼儀はなぜ必要なのか」などワーク方式を取り入れ、思考と議論を年単位で積み重ねられるようにしています。また「リョウとマキ」のように、ストーリーに連続性をもたせているものもあります。</p>	<p>◆ いじめ防止</p> <p>・「人間尊重の精神」や「いじめを許さない心の根底」には、「生命を尊ぶ」態度が不可欠です。理科や保健体育、技術・家庭などの他教科での学習も踏まつつ、本書では、生命とは何か、その尊さを守るためにはどのように考えていったらよいかなど、生命尊重への学びをより深めることができる教材を用意しました。</p> <p>◆ 情報モラル</p> <p>・昨今の生徒の人間関係は、家族や友だちといった実際に触れ合う人だけではなく、インターネットを通じて世界中に広がっています。そこには多くの楽しさと便利さがある一方で、その利用で悩んだり、負担に感じるとも多くなっています。生徒にとって、これからの人生で決して欠くことのできないインターネット・コミュニケーションについて、自分ごととして話し合っていくことができる教材を収録しています。</p> <p>◆ LGBT</p> <p>・LGBTの問題を取り上げ、一人一人の個性と、その各個人の有する能力をいかに伸ばしていきけるかについて考えを巡らすことができる内容になっています。多様な個性を持つ個人が、社会において自立的に生きる基礎を培いながら、同時に社会の形成者として必要とされる基本的な資質について話し合っていくことができます。</p>	<p>◆ 中学生の発達の段階では、生徒自身が生きる社会や人間関係が、飛躍的に広く複雑になっていくことから心理面での成長が促される一方、情緒的に不安定になる場合もあります。また、人間関係の広がりから、日常生活においては、「道徳的諸価値」がふつかり合うことを多く経験していくこととなります。そのために本書は、答えが1つではない道徳的な課題を、「一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、考え、話し合える」と議論する「下」が「上」になる工夫をしています。</p>	<p>◆ 多様な他者とのコミュニケーションを大切に、自分と異なる意見や考えにふれ、新たな発見や気づきにつながるようになっています。他者のかかわりの中で多様なアプローチから、道徳的諸価値の主体的な追究ができるようになっています。</p>	<p>◆ 学習指導要領に即した内容構成になっており、答えが1つではない道徳的な課題を「考え、議論する」授業ができる工夫をしています。</p> <p>◆ 本書の編集方針</p> <p>・学習指導要領が求める資質・能力を重視した内容とする。</p> <p>・本書が育てたいこと</p> <p>①自分の身の回りに興味・関心を持ち、道徳的な問題意識を持つことができる</p> <p>②道徳的問題場面に対し、自分の考えを持ち話し合える</p> <p>③他の人の多様な意見との出会いにより、道徳的価値に対する考えを深めることができる</p>

検討の観点

具体的視点・特色

具体例

学習指導要領・教育基本法・学校教育法との対応		組織・構成・配列	
<p>検討の観点</p>	<p>基本的な内容を生徒に理解させるための工夫はなされているか。</p>	<p>具体的視点・特色</p>	<p>具体例</p>
<p>授業の流れを想定した設問についての工夫はなされているか。</p>	<p>◆各教材の結びに、授業を想定して吟味された「問い」を配置しています。生徒の自主的な発言や議論を促すよう工夫し、意見が活発に飛び交う楽しい授業をサポートします。</p>	<p>◆「道徳科」について何を学ぶのか？（全学年共通） ◆心の成長を目指して（全学年共通）</p> <p>■1年生 C-14「形見」、C-16「雄司の自白」 ■2年生 C-14「母のアナウンサー」、C-16「受け継がれた夜」 ■3年生 C-14「二冊のノート」、C-17「不揃いでなくちゃあかんのや」</p> <p>■1年生 A-4「志」幼少の記憶より」では吉田松陰、A-16「絹像が教えてくれたこと」では陸奥宗光、A-18「大地―八田與一の夢」では八田與一を取り上げ、真実や真理を求め続ける姿勢や、その背景にあった人間の弱さや醜さを吐露する姿などを知ること、生きることの魅力や意味の深さについて考えられるようになっていきます。加えて、スポーツ分野では、重いテニスの国枝慎吾さん、料理分野では、金星探査機「あかつき」の開発者である中村正人さんなどを取り上げています。</p> <p>■2年生 A-4「人工ガンをつくりだせ」では山極勝三郎、A-5「僕の後」に道は出来る」では高村光太郎、C-16「よくいや、さく」では野中兼山、コラムでは橋本左内を取り上げています。</p> <p>■3年生 A-5「サムライ、西洋技術に挑む」では島津斉彬、C-10「苦悩の決断」では杉原千敏、C-16「なせば成る」では上杉鷹山、またコラムでは西田幾多郎を取り上げています。加えて、iPS細胞の山中伸弥教授や無農薬りんご栽培の木村秋則さん、また日本画家の東山魁夷さんの文章も掲載しています。</p> <p>■全学年共通</p>	<p>◆「道徳科」について何を学ぶのか？（全学年共通） ◆心の成長を目指して（全学年共通）</p>
<p>地域の伝統・文化や、国や地域に関わる人物を取り扱っているか。</p>	<p>◆地域の伝統・文化 「発酵食給食」などを取り上げ、コラムでは、地元の海に対する思いを綴った中学生の作文を掲載することで、郷土を愛する態度を養うようにしました。また、家族と家庭の役割について基礎的な理解を養うために、私たちにとって最も身近な社会集団である家族について、まずその連続性の観点から理解し、家族に対する愛情を深められるようにしました。</p>	<p>◆人物（先人） 身近な事例からだけでなく、先人の生き方から、生きる勇氣や知恵などを感じることが出来る教材を掲載しています。</p>	<p>◆人物（先人） 身近な事例からだけでなく、先人の生き方から、生きる勇氣や知恵などを感じることが出来る教材を掲載しています。</p>
<p>学習指導要領への対応は適切か。</p>	<p>◆各学年で、学習指導要領「A」主として自身自身に関する「C」の5項目に該当する教材を掲載しました。</p>	<p>◆1年生 A-1「十四歳の責任」では、14歳は心や身体が大人に近づくというだけでなく、法的にも責任が生じる歳ということをしつかりと理解し、考えることができる内容になっています。そしてA-1「パートナーダー」、A-2「ネット投稿」、A-3「ワン・ステップ」では、生徒の日常生活で生じる責任について、より具体的に考えることができます。また先人として、山極勝三郎と高村光太郎を取り上げて、その生き方から生きる勇氣や真理を追い求める態度などを感じることが出来ます。</p> <p>■3年生 生徒の日常生活に関するA-1「スイッチ」、iPS細胞の山中伸弥教授の少年時代や研究生活に関するA-3「シヤムナカヒ」、無農薬りんご栽培の木村秋則さんの困難や失敗に関するA-4「奇跡のりんご」、先人としての島津斉彬とハランスよく配置しました。A-2「MOTTAINAI」と続くコラム「3R」も含めて環境の保全に寄与する態度を養う教材です。</p>	<p>◆1年生 A-1「十四歳の責任」では、14歳は心や身体が大人に近づくというだけでなく、法的にも責任が生じる歳ということをしつかりと理解し、考えることができる内容になっています。そしてA-1「パートナーダー」、A-2「ネット投稿」、A-3「ワン・ステップ」では、生徒の日常生活で生じる責任について、より具体的に考えることができます。また先人として、山極勝三郎と高村光太郎を取り上げて、その生き方から生きる勇氣や真理を追い求める態度などを感じることが出来ます。</p> <p>■3年生 生徒の日常生活に関するA-1「スイッチ」、iPS細胞の山中伸弥教授の少年時代や研究生活に関するA-3「シヤムナカヒ」、無農薬りんご栽培の木村秋則さんの困難や失敗に関するA-4「奇跡のりんご」、先人としての島津斉彬とハランスよく配置しました。A-2「MOTTAINAI」と続くコラム「3R」も含めて環境の保全に寄与する態度を養う教材です。</p>
<p>学習指導要領への対応は適切か。</p>	<p>◆学習指導要領「B」主として人とのかかわりに関する「C」の4項目に該当する教材を掲載しました。特に「いじめの問題を重視した」と「いじめの予防」の教材を各学年で3編載せています。（第3巻）</p>	<p>■1年生 『世界』清潔な空港の清掃人の』の著者として知られる羽田空港港職員の新津春子さんを取り上げたC-13「仕事と心」は、働くことの意味を考え、話の面白さ内容になっています。また、循環型社会としての江戸時代や、台湾のダム建設に尽力した八田與一を取り上げたC-18「大地 八田與一の夢」では、我が国の歴史と伝統と文化への愛情、ならびに他国へ尊重が育まれるようにしています。</p> <p>■2年生 C-10「マナーとルール」、C-11「こんなまじまじの視線」は、ホウチンと隣書者というテーマから、「公共の精神」や、社会の形成者としてのまじまじの視線について考え行動にうつすことが出来る内容です。またより広い視野から考えてもらうために、国際関係に焦点を当てています。C-11「キスからもらった勇氣」はポーランド、C-17「スウェーデンの校」はスウェーデン、C-18「白菊」はアメリカ、コラム「海に道しる」は台湾と、他国を尊重する「こと」や、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことが出来るように工夫しました。</p> <p>■3年生 C-11「ニュースで討論」文えは「当たり前」は、「隣書者差別」という問題から「正義」や、あふき社会のあり方など考え、議論できるうちに工夫しました。C-13「徳屋のおばちゃん」と私」では、何を目的として働くべきかという点について、日常の風景から深く考え、話し合える内容になっています。C-17「不揃いでなくちゃあかんのや」、C-17「小泉八雲見た出雲の国」、そしてコラム「伊勢の神国」では、日本が長年育んできた伝統と文化を尊重し、愛する態度を養うことが出来ます。合わせてC-18「3R」の留半体験記「やC-18「海へ空」では、他国を尊重する「こと」や、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことが出来ます。</p>	<p>◆学習指導要領「B」主として人とのかかわりに関する「C」の4項目に該当する教材を掲載しました。特に「いじめの問題を重視した」と「いじめの予防」の教材を各学年で3編載せています。（第3巻）</p>
<p>学習指導要領への対応は適切か。</p>	<p>◆学習指導要領「C」主として集団や社会とのかかわりに関する「C」の9項目に該当する教材を掲載しました。</p>	<p>■1年生 D-19「過去からのメッセージ」という本教材のほか、コラムとして「いのちのつながり」を設け、特に「連続性」について観点から、生命の尊厳について考えられるようになっていきます。D-20「ニッポニア・ニッポン」では、環境の保全に寄与する態度を養う「こと」も、我が国への愛情が育まれる内容になっています。</p> <p>■2年生 D-19「コンスタンチン君 命のリレー」では、実際にあった出来事から、勤労や責任というテーマから、生命とは何かにについて考えられる内容になっています。またD-20「ガラスの地球を救え」では、手塚治虫の迫力ある提言から、環境の保全に寄与する意識や態度を育むことが出来る内容になっています。</p> <p>■3年生 D-19「臓器移植をめぐる命と心」では、具体的な臓器提供や脳死といった側面から「生命」について考えられるようになっていきます。D-20「峠」では、東山魁夷の流麗な文章において、日本の美しい自然への感心や愛情を育むと同時に、環境保全に寄与する態度も育まれる内容になっています。</p>	<p>◆学習指導要領「C」主として集団や社会とのかかわりに関する「C」の9項目に該当する教材を掲載しました。</p>
<p>学習指導要領への対応は適切か。</p>	<p>◆学習指導要領「D」主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関する「C」の4項目に該当する教材を掲載しました。</p>	<p>◆学習指導要領「D」主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関する「C」の4項目に該当する教材を掲載しました。</p>	<p>◆学習指導要領「D」主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関する「C」の4項目に該当する教材を掲載しました。</p>

特別支援教育、環境への配慮	
検討の観点	特別支援教育の観点から、配慮がされているか。
具体的視点・特色	<ul style="list-style-type: none"> ◆どの児童にも学ぶ喜び、自他を尊重し合う教室環境づくりやだれにでもわかりやすい授業ができるよう、問いや教材構成を工夫しています。 ・本文に盲字を配置する「てびく」教科書の内容を指示しやすくしました。 <p>◆環境への配慮 教科書の表紙には、従来よりも工夫された表面加工を施しているが、名前欄は記入しやすいように別加工するといった配慮がされている。</p>
具体例	<p>■全年共通</p>

学習指導要領・教育基本法・学校教育法との対応	
検討の観点	教育基本法第5条と照らし合わせて、内容は適切か。
条文	<p>◆教育基本法第9条</p> <p>2 義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。</p>
具体例	<p>■1年生</p> <p>C-12「町内会デビュー」では、地域社会における「自分」の関係を認識して「自分の立ち位置」を知ることにより、社会において自立的に生きる基礎を培い、社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養う意欲を持ってもらえるようになっています。(第2頁)</p> <p>■2年生</p> <p>B-9「だから歌いにつける」とコラム「友達の時」ではLGBTの問題を取り上げ、一人一人の個性と、その各個人の有する能力をいかに伸ばしていけるかについて考えを巡らすことができるとなっています。多様な個性を持つ個人が、社会において自立的に生きる基礎を培いながら、同時にひとつの国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質について話し合うことができます。(第2頁)</p> <p>■3年生</p> <p>B-6「明日への光」という、東日本大震災での体験記を掲載しました。あの震災は、あらためて家族とは何か、友だちとは何か、社会とは何か、国とは何か、国際社会とは何かを、私たち一人一人に突きつけました。あまりにつらい体験ではありませんが、あらためて振り返ることで、社会において自立的に生きる基礎、そして国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質について考えることができます。(第2頁)</p> <p>■1年生</p> <p>C-16「雄司の自慢」では、「飛騨食給食」を取り上げ、またコラムでは、地元への思いを綴った中学生の作文を掲載することで、郷土を愛する態度を養うようにしました。(第2頁)</p> <p>C-14「形見」では、家族と家庭の役割について基礎的な理解を養うために、最も身近な社会集団である家族について、まずその連続性の観点から理解し、家族に対する愛情を深められるようになっています。(第4頁)</p> <p>■2年生</p> <p>C-12「もつと知りたい」「社会に参加する」は、「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」を参照し、他国と比較し、社会参画への意識を高めるためのコラムです。(第1頁)</p> <p>C-16「よいいや、さ〜」は、誰でも一度は聞き、踊ったことがある盆踊り唄。そこに込められた本当の意味を知ること、今私たちが生きている郷土には、多くの、そして大きな思いが込められていることを実感することができる教材です。(第3頁)</p> <p>■3年生</p> <p>A-12「考えてみよう」「世界を知ろう」は、写真のみで構成されているコラムです。地球の温暖化や飢饉、難民など、世界で起きていることに意識を向け、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養います。(第3頁)</p> <p>また、道徳教材としては定番であるC-14「冊のノート」を取り上げました。少子高齢化が急速に進んでいる我が国において、家族と家庭の役割について基礎的な理解や愛情を養うために適切な教材です。(第4頁)</p>